

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2017	第1クォーター	法文学部人文社会学科		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
LdG2D-2LTR-375	A12521	フランス言語文化特講II Special Lecture on French Language and Culture II		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
柳 光子 [YANAGI Mitsuko]				1
■ 授業科目区分	専門教育科目 専門教育科目	■ 対象学生	■ 対象年次	2~2

授業題目

フランス文学と舞台芸術
French Literature and Performing Arts

授業のキーワード

フランス文学、演劇、オペラ、バレエ、ミュージカル
French Literature, Drama, Opera, Ballet, Musical

授業の目的

フランス文学を典拠とする舞台芸術について、時代背景や上演の歴史とともに多角的に学び、フランス文学に対する理解を深めるとともに、作品へのさまざまなアプローチの方法を体験する。

授業の到達目標

- (1) フランス文学の特徴や代表的作品について論述することができる。
- (2) 文学作品やその舞台化作品を時代背景や文化的状況を考慮して分析することができる。
- (3) 文化の多様性を認識し、異文化理解への一助とすることができる。

ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）／共通教育の理念・教育方針に関わる項目

社会科学または人文科学の基本的な知識を習得している。
社会科学または人文科学の特定の学問領域において的確な考察及び判断ができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる

授業概要

日本でも親しまれている舞台芸術の中には、フランス文学を土台として形成されたものが多々見受けられます。演劇、オ

ベラ、バレエ、ミュージカルなどにその具体例を見つつ、その歴史と変遷をたどり、比較検討しながら細部を観察します。なお、上演収録DVD等を鑑賞する機会を何度か設ける予定ですので、その都合によっては下記スケジュールに順序の入れ替えなど多少の変動があります。

今日ではDVDなどにより、舞台芸術を居ながらにして鑑賞することも可能になりましたが、オペラやバレエは初めてというかた、未知の領域だからと敬遠する必要はありません。この授業では「舞台芸術」を対象とするため内容として記載していませんが、文学作品の映画化やアニメーション化、テレビドラマ化となればぐっと身近なものに感じられるのではないのでしょうか。

具体例を挙げましょう。ディズニーの『ノートルダムの鐘』はヴィクトル・ユゴーの小説を翻案したものですし、『美女と野獣』は18世紀の女流作家が書いた物語から作られました。いずれもバレエやミュージカルとしても翻案されている作品です。かつて日本で「韓流」ブームの火つけ役となったテレビドラマ『冬のソナタ』の脚本家たちは、フランスで現在活躍中の作家パトリック・モディアノの『暗いブティック通り』にヒントを得たのだそうです（ストーリーは大きく異なりますが）。フランス文学は全体的な傾向として、どの時代でもどの国でも通用するような普遍性を追求してきたため、さまざまなストーリーのプロトタイプと呼べるようなものを提供していることが多いのです。

むろん舞台芸術は劇場で鑑賞してはじめて、その真価を感じることができる類の芸術と言えるでしょう。観客も含めてひとつの舞台として機能することを計算した作品も珍しくありません。しかしビデオやDVDの充実、とりわけ日本語字幕つきの上演ライヴ収録が増えたことにより、私たちはかなり臨場感のある鑑賞を疑似体験できるようになりました。原作を知ることによって舞台芸術の理解が深まること、また舞台芸術の様々な演出によって原作の新たな一面を発見すること、双方向の体験をぜひ皆さんに楽しんでいただきたいと思います。文学作品を「読書する手間を省いてつまみ食いする」ことを目的とする授業ではありませんので、ご注意ください。

授業スケジュール

※本特講を履修する場合は、第2クォーターに開講される「フランス言語文化特講II」（担当教員：柳）を同時に履修登録すること。

1. 授業のガイダンス、フランス文学における演劇の位置づけ
2. 小説が作者自身によって戯曲化されたケース（メディア授業）
3. オペラの台本として採用された作品
4. オペラ『フィガロの結婚』——原作ボーマルシェ
5. オペラ『椿姫』——原作デュマ・フィス
6. オペラ『カルメン』——原作プロスペール・メリメ
7. オペラの鑑賞レポート（メディア授業）
8. ここまでのまとめ・ふりかえり

参考のため、第2クォーターでのスケジュールを以下に示します。

1. 後半へのイントロ、言葉が用いられない芸術バレエ
2. バレエ『シンデレラ』『眠れる森の美女』——原作シャルル・ペロー（メディア授業）
3. バレエ『椿姫』——原作デュマ・フィス
4. ミュージカルの特性・小説からの翻案をめぐって
5. ミュージカル『レ・ミゼラブル』——原作ヴィクトル・ユゴー（メディア授業）
6. ミュージカル『オペラ座の怪人』——原作ガストン・ルルー
7. 上演収録DVDの鑑賞
8. 上演収録DVDの鑑賞とまとめ

授業時間外学習にかかわる情報

目標とする知識と能力を身につけるには、授業に加えて受講生自身による学習を必要とします。特に作品の抜粋など、あらかじめ配付された資料は、必ず十分な時間をかけて読み、感想や疑問点などをまとめたうえで授業に出席すること。

成績評価方法

1. 平常点（予習の実績、出席カードへのコメントなど） 40%
2. 「メディア授業」内での課題（Moodleにより提出） 60%

受講条件

フランス文学およびフランス語に関する予備知識は特に必要としない。「フランス言語文化特講Ⅰ」を受講している必要もありません（科目名のⅠやⅡという数字は担当教員が異なることを示すための番号であり、履修の順序やレベルの違いを意味するものではありません）。

受講のルール

講義形式で授業を行いますが、受講生からの積極的な発言を歓迎します。私語をはじめとする迷惑行為は厳禁。

授業中に配付する資料を、次の回以降に受け取ることはできません。欠席などにより受け取らなかった場合、その週のうちに連絡し、次回の授業よりも前に取りに来ること。それができなかった場合は、他の受講生から借りるなどして自分で解決しなければなりません。

*「授業のスケジュール」にも示した通り、本特講を履修するにあたっては、第2クォーターに開講される「フランス言語文化特講Ⅱ」（担当教員：柳）を同時に履修登録してください。連続受講することで完結する内容だからです。やむを得ない事情により、どうしても連続受講できない場合は、必ず事前に相談のこと。

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	フィガロの結婚			ISBN	4403110053
	著者名		出版社		出版年	1998

		ポータルシェ		新書館		
参考書2	書名	椿姫			ISBN	4102009019
	著者名	デュマ・フィス	出版社	新潮社	出版年	2004
参考書3	書名	カルメン			ISBN	4003253434
	著者名	メリメ	出版社	岩波書店	出版年	2007
参考書4	書名	ペローの昔ばなし			ISBN	9784560071632
	著者名	シャルル・ペロー	出版社	白水社	出版年	2007
参考書5	書名	オペラ座の怪人			ISBN	9784334752743
	著者名	ガストン・ルルー	出版社	光文者	出版年	2013
参考書6	書名	レ・ミゼラブル (全4冊)			ISBN	4003253116
	著者名	ヴィクトル・ユゴー	出版社	岩波書店	出版年	1987

教科書・参考書に関する補足情報

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付し、DVD等の映像資料も適宜使用する。

オフィスアワー

木曜 14:30-15:30（時間調整が必要な場合があるため、できるだけ前日までにメールで連絡してください。また、事前に連絡があれば、可能な範囲で他の曜日・時間帯にも対応します）

Eメールアドレス

yanagi.mitsuko.mx@ehime-u.ac.jp

連絡先

柳研究室：法文本館8階(801)

参照ホームページ

